

財 団 法 人 東 洋 文 庫 年 報

昭 和 51 年 度

財 団 法 人 東 洋 文 庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和51年度

目 次

I 昭和51年度の東洋文庫	3
II 図書事業	5
1. 図書の収集・整理と閲覧	5
2. 図書の整理と閲覧	6
3. 資料複製増刷サービス	7
4. 展示会	7
III 研究事業	9
1. 調査研究	9
i 一般調査研究	9
ii 特別調査研究	11
iii 研究委員会	14
2. 学術図書出版	15
3. 講演会	15
4. 研究会	16
5. 研究者養成	16
6. 国内・国外研究者への便宜供与	17
7. 職員の研究業績	17
IV 業務報告	26
1. 庶務報告	26
2. 人事報告	28
3. 会計報告	29

V 役職員名簿	35
1. 役員	35
2. 東洋学連絡委員会委員	36
3. 名誉研究員	36
4. 職員	37
5. 臨時職員	38
VI 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター事業	39
1. 調査研究事業	39
2. 連絡および情報交換事業	41
3. 資料の調査・収集事業	43
4. 学術図書出版事業	44
5. 語学講習会	45
6. 国際交流事業	46
7. 業務報告	49
8. 役職員名簿	52

I 昭和51年度の東洋文庫

本年度の東洋文庫の事業として特筆大書すべきことは、東洋文庫写真室の児野壽満子・池田直人両氏を中心とする人々がリスボンに赴き、約3ヶ月（8月24日～9月25日、10月25日～12月20日）を費して、アジューダ宮図書館所蔵の一大文書集「アジアにおけるイエズス会士」62大冊、約6万600頁を撮影し、鮮明無比なる写真を持返ったことであろう。

「アジアにおけるイエズス会士」と称せられる文書集は、16世紀の中頃から18世紀の中頃に至る2百年間の、インド・支那・日本で活躍したイエズス会士の手紙と各種の報告とを集成したもので、それはマカオの「神の母のコレージオ (Collegio da Madre de Deos)」通称「サオン＝パウロ学校」の文書館に収められていた原文書を、マカオ教区副長のジョアン＝アルヴァレス (João Alvarez) が命を受けて、1744年から49年まで5年がかりで7人の筆耕に写させ、1747年から49年までの間に、何回かに分けてポルトガルに送ったものである。

1759年1月、ポルトガル政府はイエズス会の解散を命じ、会の財産の一切を没収した。この文書集がポルトガル王家の書庫に入ったのはこの時である。ただし、今日アジューダ宮図書館に蔵せられている62冊がポルトガルに送られた全部であるのか、本来はもっと沢山あったのか、今これを確めるすべがない。

この文書集は、いわゆる典礼問題をめぐって他宗派およびローマ教皇がイエズス会に加えた非難に対し、アジアにおけるイエズス会の真摯な布教活動とその輝しい成績とを説明し、会の布教の方法が決して誤っていなかったことを強調する、一大反駁書を作成する資料として編集されたものであろうといわれている。

典礼問題とは、イエズス会が支那で布教するに当って、天の崇拜とか、祖先の祭祀とかいう、支那固有の信仰や道徳を、キリスト教の教義に反するものでないと認めて来たことの是非についての論争で、17世紀の中頃からここに至るまではほとんど1世紀にわたって、キリスト教会の大問題となっていたものである。イエズス会は16世紀の後半から17世紀の初めまで支那における布教を独占した。そして大きな成績を挙げた。それが遅れて支那に来、思うように成績の挙げがらなかった他宗派の嫉視を買ったのである。イエズス会は1759年ポルトガルで禁圧されたのを皮切りに、1764年フランスで、1767年ナポリとスペインとで、1768年バルマでそれぞれ禁圧され、1773年、教皇のクレメント14世はついにイエズス会の解散を命じた。会は1814年に至って始めて復活する。

1762年、本国ポルトガルに遅れること3年、マカオでもイエズス会の財産は没収さ

れ、アルヴァレスを含む会士24人が追放された。そして1835年、学校は火災にかかり、文書はすべて烏有に帰した。ところが、シュツテ神父 (Josef Franz Schütte S. I.) の調査によると、マカオにあってこの時焼けたと信じられていた原文書の或るものが、マドリードの歴史研究所図書館・国立古文書館・国立図書館に現在所蔵されているという。そしてその中には「何巻何頁に写取すみ (Copiado en el tomo……, p.……)」と写して「アジアにおけるイエズス会士」の中に収めたことを明記してあるものがあるという (Wiederentdeckung des Makao-Archivs. Wichtige Bestände des alten Fernost-Archivs des Jesuiten, heute in Madrid, in: Archivum Historicum Societatis Iesu, XXX, 1961, pp. 90-124)。尤もシュツテ神父は主として日本関係の文書について調査したもので、結論として嘗てマカオにあったイエズス会の極東文書は火事に焼け亡せたのではなく、少くとも可成の部分 (wenigsten zu einem beträchtlichen Teil) マドリードに残存していると記してはいるが、具体的にどの部分がどれほど残っているのかは、今後の詳しい調査によって明かにせられるであろう。「アジアにおけるイエズス会士」は関係文書が一纏めにされ浄書されていることによっても、我々にとって頗る便利で極めて貴重な文書集であり、16～18世紀のアジアの事情を研究する史料の宝庫である。その極めて鮮明な写真が東洋文庫に将来されて、居ながらにしてこの鴻宝を利用することが出来るのは、学ぶ者の至福であると言わざるを得ない。

この撮影は三菱財団の補助金によって完成したものである。我等は財団関係者の理解ある後援と、何かにつけて便宜を与えられた大口信夫大使・安部正康参事官を始めとする在リスボン日本大使館の諸氏、特に文書集の撮影を快諾せられ、割当てられた電力のほとんどすべてをこの撮影にふりむけて事業の達成を助けられたアジュダ宮図書館の諸氏の厚意に、心から感謝する。この写真を利用する人々もそれがこうした後援と厚意との賜であることを、常に想起して頂きたい。

なお、この文書集を精査し、文書の一つ一つに解説を施し、これが当時の東アジアの歴史の研究に必須の史料集であることを始めて明かにしたのは、昭和4年、リスボンに赴かれた岡本良知氏 (1900～1972) である。調査の結果は、昭和5年11月刊行せられた報告「ポルトガルを訪ねる」(東京、日葡協会刊、223頁) に詳かである。シュールハムマー神父 (G. Schurhammer S. I.) も同じく1929年この文書集の内容目録を發表したが (同神父の論文集の一つ Orientalia, Roma 1963, pp. 3～12)、岡本氏の調査は澳門のポルトガル人の研究家ブラガ氏 (J. M. Braga) によって紹介せられ (Boletim Eclesiástico da Diocese de Macau, XXXVIII, 3, Novembro 1939, pp. 188-215)、その結果、ポルトガルを含めて広くヨーロッパにその価値が知られ、いくつかの史料集にもこの中の文書の多くが利用せられている。

II 図 書 事 業

1. 図書の収集・整理と閲覧

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料がある。昭和51年度末現在の蔵書数は581,670冊となった。

・資料購入

	和 漢 書	洋 書	複写資料	計
一 般 文 献 資 料	119冊	127冊		246
中央アジア特別研究資料		549	2リール	551
東アジア特別研究資料	1,603	113	56	1,772
西アジア特別研究資料		490		490
計	1,722	1,279	58	3,059

・資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和 漢 書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	2,234冊	2,606冊	4,840冊	974冊	749冊	1,723冊
定期刊行物	2,432 (新聞10種)	1,855	4,287 (新聞10種)	460	767	1,227
計	4,666	4,461	9,127	1,434	1,516	2,950

2. 図書の整理と閲覧

・製本数量内訳

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	12	380	267	426	159

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧人数	一日平均	昨年同月 との比 (△印は減)	閲覧 図書数	一日平均	昨年同月 との比 (△印は減)
4	24日	290人	12人	13人	5,549冊	231冊	1,484冊
5	23	370	16	△16	6,040	262	403
6	25	444	17	△16	8,143	326	1,780
7	26	584	20	37	9,850	379	196
8	25	577	23	74	8,024	321	△2,094
9	23	426	19	△43	5,916	257	△2,831
10	24	466	20	△89	7,217	301	△3,056
11	22	461	21	88	7,212	328	1,317
12	22	406	19	△19	5,449	248	△2,694
1	21	282	13	36	5,062	241	1,053
2	22	311	14	80	5,054	207	1,344
3	25	369	14	28	4,906	192	△ 971
計	282	4,986			78,422		

・閲覧図書数内訳

月	和 書		漢 籍		洋 書		合 計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	155	392	758	4,963	148	194	1,061	5,549
5	217	564	789	5,177	195	299	1,201	6,040
6	332	564	1,222	7,171	206	408	1,760	8,143
7	414	965	1,394	8,277	286	608	2,094	9,850

8	476	972	1,184	6,315	318	737	1,978	8,024
9	319	568	729	4,987	215	361	1,263	5,916
10	415	1,333	868	5,450	242	434	1,525	7,217
11	347	861	986	5,991	243	360	1,576	7,212
12	323	559	753	4,592	180	298	1,256	5,449
1	197	420	623	4,378	163	264	983	5,062
2	264	530	542	4,135	250	389	1,056	5,054
3	268	544	621	3,989	190	373	1,079	4,906
計	3,727	8,272	10,469	65,425	2,636	4,725	16,832	78,422

3. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 駒 数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
931	73,358	94,312	26,288

・電子複写

申 込 件 数	撮 影 枚 数
1,642	112,085

4. 展 示 会

第60回東洋文庫展示会

本年度の展示会は、洋書は初期シナ学関係史料から、和・漢書は東洋文庫所蔵地誌類より、それぞれ善本を選んで展示した。期日は昭和51年11月6・7日の二日間、参観記帳者は76名であった。なお、解説目録（油印・34頁）を作成して配布した。

文部省各種補助金による年度別図書収集一覧表

年 度	蔵 書 数 (冊)	洋 書 数 (冊)	和 漢 書 数 (冊)
昭51	581,670	255,322	326,348
50	569,542	248,641	320,901
49	562,294	244,920	317,374
48	556,002	242,287	313,715
47	549,367	238,581	310,786
46	541,465	235,595	305,870
45	535,100	234,116	300,984
44	530,307	231,602	298,705
43	525,071	229,053	296,018
42	515,990	222,459	293,531
41	512,168	220,713	291,454

III 研究事業

1. 調査研究

調査研究は、文部省民間学術研究機関補助金による一般調査研究と特別調査研究とにわかれる。なお、本年度は文部省科学研究費による事業報告はない。

i 一般調査研究

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】(1)梅原末治氏寄贈にかかる東亜考古学資料の整理と目録の作成：特に日本之部を含む東亜之部の青銅器資料の整理と目録の補充とを行なった。

古代史研究委員会

【資料の整理・編集】(1)東洋文庫所蔵の甲骨文資料613片の整理・研究並びに内容分類資料集の編集を終了した（『東洋文庫所蔵甲骨文資料集』の作成）。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】(1)国内国外に現存する西域出土古文獻・古文書の所在調査、マイクロ・フィルムによる収集（前年度の継続）。

(2)内外の諸機関、研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開、情報提供を行なった（前年度の継続）。

(3)内陸アジア出土古文獻研究会の開催。

第1回 2月5日 土肥義和：「敦煌戸籍の園宅地」

第2回 4月10日 梅村 坦：「ウィグル文非宗教文書研究の概要——附イスタンブール大学中央図書館所蔵トゥルファン出土文書・写本紹介（スライド）」

第3回 5月26日 梅村 坦：「違約罰納官文言をもつウィグル文書について」

第4回 6月5日 森安孝夫：「ウィグルの西遷について」

第5回 6月30日 田中良昭：「敦煌禅宗文献の年代をめぐって」

第6回 9月25日 北原 薫：「唐代文書にみえる伝馬坊と馬驢子」

第7回 11月5日 山本達郎：「敦煌発見の籍帳にみえる地段的隣接関係について」

第8回 12月4日 金子良太：「コータン文献の研究一瞥」

第9回 2月12日 兜木正亨：「敦煌本法華經雜觀」

第10回 3月19日 北原 薫：「敦煌籍帳に現れた三代資狀注記(-)」

(4)内陸アジア出土古文書の内容分類別カードを作成し、その研究目録を編集した。

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】(1)宋会要輯稿食貨之部の要項および語彙索引の増補、並びに語彙の研究（前年度の継続）。

(2)宋代史研究文献目録及び速報の作成。

明代史研究委員会

【講読・研究】(1)明代農民起義に関する文献の講読・研究（前年度の継続）。

(2)『海瑞集』を主として、明代社会に関する文献の講読・研究。

近代中国研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び編集】(1)中国共産党史資料の書誌学的研究（前年度の研究）。

(2)“解放日報”記事目録索引の編集（前年度の継続）。

(3)「日本人の中国旅行記及び調査報告書」の編集。

(4)清末外交文書研究会の開催。

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】(1)近代における欧米列強と東アジアないし、日本との国際関係、および近代日本と大陸諸民族との国際関係について、国際政治のみならず国際経済の資料をも収集し、これらの世界史的性格を総合的に研究する（前年度の継続）。

【文献目録の分類】(1)欧米における日本研究論著の目録の編集（前年度の継続）。

清代史（満州・蒙古）研究委員会

【校訂本・訳註の作成】(1)清太宗実録、順治本、康熙本、乾隆本の比較検討及び校訂本の作成（前年度の継続）。

(2)『旧満州檔』の『満文老檔』未収部分の訳注原稿の作成（前年度の継続）。

朝鮮研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び編集】(1)朝鮮法制書の調査収集、及びその講読、語彙索引の編集（前年度の継続）。

(2)李氏朝鮮の民政関係史料の収集・整理・研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

【研究・整理】(1)隊商貿易史の研究(前年度の継続)。

(2)中央アジア・トルコ諸民族史の研究(同上)。

(3)イスラム社会の構造の研究(同上)。

(4)トルコ・日本両国の近代化の比較研究(同上)。

(5)アルタイ学辞典の編集。

(6)「イスラム国家論」の研究会の開催。

第1回 7月3日 山内昌之:「イスラム世界における民衆運動——トルコ革命と
パルチザン——」

第2回 9月4日 片岡一忠:「中国イスラム史上の諸問題——特に17・18世紀のイ
スラムを中心として——」

第3回 10月22日 古林清一:「オスマン朝統治下のエジプトのスーフィー教団」

第4回 11月26日 羽田 正:「サーマーン朝の性格——特にカリフとの関係から考
えて——」

第5回 12月17日 尾高晋己:「19世紀中葉北西ブルガリアにおける大土地(Gospod-
arik)について」

第6回 1月21日 四宮宏貴:「インド独立の過程におけるクリップス使節団の役割
——パキスタン独立にふれて——」

第7回 2月25日 水谷 周:「現代イスラムの政治思想——Mūsā 著『イスラムの
統治組織』について——」

第8回 3月25日 杉原 達:「バグダード鉄道論」

南方史研究委員会

【資料の収集・整理・編集】(1)『東洋文庫所蔵東南アジア 関係欧文図書分類目録』の
編集(編集済)。

(2)インド古代における賤民制, 奴隷制に関する資料をマイクロ・フィルムその他によ
って網羅的に収集し, その調査分類を行った(前年度の継続)。

(3)『東洋文庫所蔵インド関係欧文図書分類目録』の編集(同上)。

ii 特別調査研究

チベット研究委員会

チベット研究委員会は, 昭和36年度にインドからチベット人研究協力者3名を招聘
し, 以来「チベット人との協同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研

究」を実施して来た。昭和43年度からは、その新たな展開と充実を企図し、東洋文庫に対する文部省補助金によるチベット特別調査研究を開始した。研究テーマ「チベットの歴史と文化の系統」は対象とする時代を古代チベット（7世紀以前，7～10世紀），中世チベット（10～14世紀），近世チベット（15～17世紀），近代チベット（18～19世紀），現代チベット（20世紀）に分け、チベットの文化，社会の諸相について，周辺諸地域の文化，社会と比較しつつ，その特質を究明しようとするものである。

昭和51年度：近代チベット（18～19世紀）調査研究報告

〔歴史班〕榎 一雄，山口瑞鳳，金子良太

〔宗教班〕山口瑞鳳，川崎信定，松濤誠達，立川武蔵

〔言語班〕北村 甫，星 実千代，長野泰彦

〔チベット人研究協力者〕サムテン・ゲンツェン・カルメー，ケサン・ナムゲー，ツルティム・ケサン

I 歴史班担当

1747年ボラネが没してその子ギュルメ・ナムゲルが政権をとると，一転して清軍の撤退をもとめ，ズンガルと結びつこうとしたため，時の駐藏大臣傅清等に謀殺された。そこで逆上したギュルメ・ナムゲルの一党から清朝側が迫害され，混乱が起ったので，ダライ・ラマ7世はドリン・パンディッタに命じて清朝側を保護し，爾後処理に当らせた。翌年清軍が到着すると，ダライ・ラマ7世は功を認められ，直属する俗権の最高機関として4人の大臣からなる内閣（カジャ）をもった。これが以後200年続いたチベットの統治体制となった。その後間もない1757年ダライ・ラマが没し，新ダライ・ラマが成年に達するまでその地位を代行する摂政職が設けられた。この新しい権力をめぐって19世紀に入ると政争が起ったが，18世紀末は専らネパールとの通商問題からグルカ軍の侵入に悩み，2度目に清の大軍が至って大勝したので清朝の権威が回復され，大過はなかった。

II 宗教班担当

ダライ・ラマ政権の成立(1642)と共に，ゲルク派は正統仏教の地位を主張した。18世紀に至り，清朝との往来が頻繁になると，青海地方の大ラマは，或は清朝の庇護を受け政治的にも有力となったが，他方にゲルクバを代表する学匠も輩出した。彼等が中心となってゲルク派教学の正統性を教学的に跡づける試みが続けられた。そのうち，ジャムヤンシェペドルジェとチャンキヤルペドルジェの著わした2大宗義大成が最も重要なものであり，この2つの比較研究によって，本年は吐蕃時代末期以降に唯識教学が，特に中観教学の立場に対してどのように位置づけられてきたかを調べて，多くを明かにすることが出来た。

Ⅲ 言語班担当

近代チベット語の研究：昭和50年度に引き続き『五体清文鑑』（18世紀末）の奉天故宮旧蔵本，北京重華宮旧蔵本，大英博物館所蔵の異同の調査を集めると同時に，同文献所蔵のチベット語の特徴を明らかにするために，近代チベット語諸資料のチベット語及び現代チベット語諸方言との比較研究を行った。『五体清文鑑』については，「論旨部」までの調査を終了した。

Ⅳ 歴史班，宗教班担当

(1)東洋文庫蔵外文庫中の「ロンチェン・ニンチク全書」の目録出版原稿を作成中である。

(2)チベット文献の収集・整理：インドに於いてチベット人により複製出版されつつあるチベット語文献中，ボン教関係文献41点を購入，整理した。現在，東洋文庫所蔵ボン教文献の目録を編集当中である。

(3)研究成果の刊行：スタイン蒐集の敦煌チベット文献の過半数は現在英国の旧インド省図書館に保管され，Vallee Poussin がその目録を既に出版（1962年）しているが，特に北京版西藏大蔵経，大正新修大蔵経との勘同を中心に再検討し，昭和51年度の研究成果の刊行事業として『スタイン蒐集チベット語文献解題目録（第1分冊）』を出版した。

Ⅴ 研究会

昭和48年度から東洋文庫チベット研究委員会主催のチベット月例研究会を東洋文庫においてひらき，研究活動および研究者の交流をはかっている。昭和51年度の研究報告は次の通りである。

- 第1回 4月17日 栗山秀純：「ラダック紀行」
- 第2回 5月15日 袴谷憲昭：「チベット撰述文献における唯識の学系」
- 第3回 6月19日 松本史朗：「入中論第6章に就て」
- 第4回 7月24日 金子英一：「仏教とボン教の修習」
- 第5回 8月28日 長野泰彦：「アムド・シェルパ方言について」
- 第6回 9月25日 星 実千代：「礼布カターについて」
- 第7回 10月30日 上杉隆英：「敦煌出土写本 Poussin no. 264《法王経》について」
- 第8回 11月20日 森安孝夫：「ホルについて」
- 第9回 12月18日 原田 覚：「チベットに伝わる禅」
- 第10回 1月22日 高崎直道：「ケーレン・チョマ記念シンポジウムから帰って」
- 第11回 2月19日 岡田英弘：「モンゴル文年代記におけるチベット文献の影響」
- 第12回 3月26日 金子良太：「Žwa-lu-dgon-pa 余話」

VI チベット語講習会

51年12月よりケサン・ナムゲー、北村 甫、長野泰彦を講師とし、Goldstein: Modern Literary Tibetan をテキストとして、毎週土曜日、一般から受講生を募集して、現代チベット文語の講習会を開催した。受講生は約70名。なお、本講習会は昭和52年度6月に終了の予定。

iii 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和52年3月31日現在、研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学：梅原末治、小山 勲、関野 雄、渡辺兼庸

古代史：越智重明、宇都木 章、河野六郎、後藤均平

唐代史（敦煌文献）：榎 一雄、池田 温、菊池英夫、佐藤智水、土肥義和、藤枝 晃、松本 明

宋代史：青山定雄、草野 靖、佐伯 富、周藤吉之、竺沙雅章、中嶋 敏、古垣光一、渡辺紘良

明代史：田中正俊、鶴見尚弘、森 正夫、山根幸夫

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、坂野正高、山根幸夫

第2部 近代日本研究

近代日本：岩生成一、田中時彦、鳥海 靖、亀井 孝、酒井憲二

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎 一雄、岡田英弘、神田信夫、松村 潤

朝鮮：河野六郎、末松保和、田川孝三、森岡 康

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄、後藤 明、志茂碩敏、永田雄三、花田宇秋、護 雅夫

チベット：榎 一雄、金子良太、川崎信定、北村 甫、長野泰彦、松濤誠達、山口 瑞鳳、S・G・カルメー

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄、生田 滋、岩生成一、榎 一雄、辻 直四郎、薮 勇造、松本

信広, 三根谷 徹, 山崎元一, 山本達郎

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫欧文紀要

Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko. No. 34. 1976 年刊
B 5 判 348頁

東洋文庫和文紀要

東洋学報 第58巻1・2号 昭和51年12月刊 A 5 判 263頁

東洋学報 第58巻3・4号 昭和52年3月刊 A 5 判 250頁

東洋文庫各種委員会刊行物

朝鮮研究委員会

『經國三典語彙集覽』 昭和52年3月刊 A 5 判 250頁

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』(第1分冊) 昭和52年3月刊 B 5 判
138頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録 第24号』(和書・中国語・朝鮮語) 昭和52年3月刊 B 5
判 57頁

『財団法人東洋文庫書報 第8号』 昭和52年3月刊 A 5 判 115頁

『財団法人東洋文庫年報 昭和50年度』 昭和51年12月刊 A 5 判 60頁

3. 講演会

春期 東洋学講座(第286回~290回)

高瀬弘一郎「キリシタン教会の資金調達法について一特に委託貿易とレスポнден
シアを中心に」(5月18日)

荒 松男「インド史におけるスーフィー聖者の墓廟一宗教権威と支配権力」(5
月25日)

赤塚 忠「中国古代における風の信仰と五行説」(6月1日)

田仲一成「明清地方劇の社会構造」(6月8日)

原 実「古代インドの苦行者—呪と破戒—」(6月15日)

秋期 東洋学講座 (第291回～294回)

前野直彬「中国小説史の源流を支えたもの」(10月26日)

榎 一雄「支那地図史上の十六・七世紀」(11月2日)

星 斌夫「明・清代の漕糧輸送制を比較して」(11月9日)

和田博徳「朝貢体制の本質—中国・ベトナムの邦交関係—」(11月16日)

特別講座

呉 其昱(フランス)「フランスにおける最近の敦煌文書研究」(51年5月15日)

K. B. ガードナー (イギリス)「大英図書館の現状と将来」(51年11月5日)

M. R. パンディ (ネパール)「ネパール・チベット関係」(51年12月7日)

L. ペティック (イタリア)「カイラース＝マナサローラ地方のディクンパ派」
(52年3月12日)

4. 研究会 (東洋文庫談話会)

袴谷憲昭「チベット撰述文献における唯識の学系」(51年5月15日)

長野泰彦「アムド・シェルパ方言について」(51年8月28日)

佐藤智水「造像銘にあらわれた北魏仏教の性格」(51年9月18日)

土肥義和「敦煌出土漢文文書の一性格—吐蕃占領期を中心に—」(51年10月23日)

古垣光一「宋初の遷官について」(51年12月4日)

山口瑞鳳「吐蕃の国号」(51年12月11日)

小山 勲「韓国の考古学と博物館」(52年1月29日)

永田雄三「オスマン帝国支配下のトルコ・エジプトにおける徴税請負制をめぐって」(52年3月26日)

森 正夫「明末清初における『風俗』の変容と民衆反乱」(52年3月26日)

5. 研究者養成

チベット研究：長野泰彦「ボン教の伝承に関する文献学的研究」

中国研究：古垣光一「宋代官僚制の研究」

イスラム研究：志茂碩敏「Ghazan Khān の諸改革」

6. 国内・国外研究者への便宜供与

日本学術振興会外国人招へい研究員

ルチアーノ・ペティック（ローマ大学教授）〔課題〕「日本所蔵チベット歴史文献
及びネパール・サンスクリット文献の収集・整理・研究」
（昭和51年12月～52年3月の4ヶ月間）

Luciano Petech (Prof. of History Univ. of Rome) [Title of the research in
Japan] 「Research on Tibetan and Chinese Texts concerning the History of
Eastern Tibet and on Sanskrit Manuscripts from Nepal available and access-
ible in Japan.」 (11, 30, 1976-3, 29, 1977)

日本学術振興会流動・奨励研究員

流動研究員

森 正夫（名古屋大学助教授）〔課題〕「明清期地主制の総合的研究」（昭和51年度
下半期）

奨励研究員

佐藤智水〔課題〕「南北朝・隋・唐初における邑義について」

便宜供与した外国人研究者

Dr. Wu Chiyu（呉 其昱博士）（フランス国立科学研究所研究員）

7. 職員の研究業績

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介 ⑥…翻訳
⑦…講演・研究発表 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田 温

③「現存開元年代籍帳の一考察」（東洋史研究 35—1, 46～83頁, 東洋史研究会,
1976年6月）, ⑤「新疆維吾爾自治区博物館編『新疆出土文物』」（東洋学報58—3・
4, 123～30頁, 東洋文庫, 1977年3月）, ⑥「呉其昱「フランスにおける最近の敦煌
文書研究」」（東方学53, 115～127頁, 東方学会, 1977年1月）, ⑧「唐律令の継受を
めぐって」（日本思想大系月報55, 5～8頁, 岩波書店, 1976年11月）, 「鈴木俊
先生」（法制史研究26, 317～319頁, 法制史学会, 1977年3月）。

岩生成一

②『シーボルト「日本」の研究と解説』（監修, 講談社, 319頁, 1977年1月）, 『和
蘭風説書集成』上巻（監修, 日蘭学会, 328頁, 1976年12月）, ③「蘭医 Willem ten

Rhyne と黎明期の日本西洋医学」(日蘭学会々誌2, 1~35頁, 1976年11月), 「デカルトの孫弟子日系人 Pieter Hantsinck の墓碑」(日本歴史339, 82~83頁, 1976年8月), ⑦「17世紀 Baturā 移住日本人の法的生活」(日本学士院, 1977年2月12日)。

榎 一雄

③「史通の成立について」(国学院雑誌77—3, 107~121頁, 国学院大学, 1976年3月), 「The Oldest Portrait of a Japanese」(Revista de História, No. 102 (1975), pp. 539~550, with a plate), 「『古今形勝之図』について」(東洋学報58—1・2, 1~48頁, 東洋文庫, 1976年12月), 「On the Ku-chin hsing-shêng chih t'u 古今形勝之図 of 1555」(Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko 34, pp. 243~254, 1976年, with a facsimile reproduction of the map), ④「イタリヤ中東亜研究所のパキスタン・アフガニスタン・イランにおける考古学的調査(一)」(東方学52, 130~142頁, 東方学会, 1976年7月), ⑤「『アジア大学アジア』研究所への便り」(同研究所所報4, 12頁, 1976年5月), 「王国維手鈔手校詞曲書二十五種—東洋文庫所蔵の特殊本(その三)—」, 「岡本保孝のこと(上)—東洋文庫所蔵の特殊本(その四)—」, 「『ジハンギール略像の発見』に寄せて」(東洋文庫書報8, 1~25頁, 26~62頁, 92~94頁, 東洋文庫, 1977年3月), ⑦「支那学研究に関する資料の所在について」(昭和49年足利学校積典記念講演筆記, 26頁, 足利学校記念図書館刊, 1950年11月), 「支那地図史上の十六・七世紀」(東洋文庫東洋学講座, 1976年11月2日, 要旨: 東洋文庫書報8, 106~111頁, 東洋文庫, 1977年3月), 「東西貿易史上の十七世紀」(日本女子大学教養特別講義, 1976年12月2日, 要旨: 女子大通信337, 2~16頁, 日本をみつめるために, 第11集, 43~57頁), 「天下〔古今の誤〕形勝之図について」(東方学会報31, 14~15頁, 東方学会, 1976年12月), ⑧「アジア文化の新しい認識」(学校経営21—1, 1~16頁, 1976年1月), 「東洋文庫について」(学士会月報732, 57~60頁, 1976年7月), 「歴史学研究と私」(歴史学研究戦前復刻版月報18, 6~8頁, 歴史学研究会, 1976年8月), 「きりしたん版集成」(八木書店・雄松堂書店刊, 広告文), 「恋塚春雄著『真説邪馬台国』」(函館市五陵出版社刊, 序文, 1976年12月), 「Our Reader Reaction(PHP, February, 1976, pp. 76), 「健康のエコロジイ」(帰れ自然へ! アルク128, 7~8頁, 1976年3月), 「万人の蘇峰たらしめよ」(晩晴15, 9~10頁, 1976年3月), 「ニューデリーの想い出」(1—4) (山紫水明72—75, 各回4頁, 1976年1—7月), 「メキシコの想い出(1—3)」(山紫水明76—78, 1976年9月~1977年1月)。

越智重明

③「漢の長安城について」(古代文化28—11, 1~14頁, 古代学協会, 1976年11月), 「一畝二百四十歩制をめぐる」(東方学53, 21~35頁, 東方学会, 1977年1月), 「漢六朝史の理解をめぐる」(九州大学東洋史論集5, 1~57頁, 九州大学文学部東洋史研究室, 1977年3月)。

菊池英夫

- ③「唐賦役令庸調物条再考」(史朋4, 1～7頁, 北海道大学東洋史談話会, 1976年4月)。

北村 甫

- ①*Asian & African Grammatical Manual No. 12z: Tibetan(Lhasa Dialect)*, (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1977年3月, 51頁) ②*GLO SKAD: A Material of a Tibetan Dialect in the Nepal Himalayas.*(Kalsang Namgyal 他2名と共編, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1977年3月, 11頁) ⑦「ネパール調査報告一言語調査を中心として」(第5回ネパール研究学会, 1976年6月6日) ⑧「言語研修について」(通信29, 13～30頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1977年3月)。

河野六郎

- ③「文字の本質」(『岩波講座・日本語』8, 1～22頁, 岩波書店, 1977年3月)。

小山 勲

- ⑦「韓国の考古学と博物館」(東洋文庫談話会, 1977年1月29日)。

佐伯 富

- ②『雅俗漢語訳解』(編書, 309頁, 同朋舎出版部, 1976年2月), ③「王安石之新法(邱添生氏訳)」(国立台湾師範大学歴史学報4, 179～196頁, 1976年4月), 「中国史的發展与銀の問題(林茂松氏訳)」(国立台湾大学歴史学系学報3, 247～253頁, 1976年5月), 「独裁君主の経済政策及其影響(邱添生氏訳)」(国立台湾師範大学史学会刊16, 2～8頁, 1976年6月), 「中国近代史發展与銀の問題」(台湾・東海大学講演(張勝彦氏通訳, 李竹君氏筆録), 要旨: 東海大学史学会刊5, 7～9頁, 1976年6月), 「清代における山西商人」(史林60—1, 1～14頁, 史学研究会, 1977年1月), 「清代的山西商人(邱添生氏訳)」(国立台湾師範大学歴史学報5, 281～292頁, 1977年4月)。

酒井憲二

- ②『歌舞伎評判記集成』十(共編, 736頁, 岩波書店, 1976年6月), ②『図書寮本類聚名義抄』解説索引篇(共編, 264頁, 勉誠社, 1976年11月), ③「甲陽軍鑑の版本について」(山梨県立女子短大紀要10, 1～36頁, 1977年3月), ⑤「森田武著『天草版平家物語難語句解の研究』」(国語学107, 72～75頁, 国語学会, 1976年12月), ⑧「語学的処理の一典例」(『歌舞伎評判記集成』月報10, 3～6頁, 岩波書店, 1976年6月)。

滋賀秀三

- ③「武威出土王杖十簡の解釈と漢令の形態—大庭脩氏の論考を読み—」(国家学

会雑誌90—3, 186～206頁, 国家学会, 1977年3月)。⑤「草野 靖「旧中国の田面慣行—田面の物質的基盤と法的慣習の諸権利—」, 同「旧中国の田面慣行—田面の転頂と佃戸の耕作権」(法制史研究26, 264～267頁, 法制史学会, 1977年3月)。

末松保和

③「対馬の神地」(朝鮮学報81, 169～178頁, 朝鮮学会, 1976年10月), ⑦「歴史的思考と歴史研究」(学習院史学会例会, 1976年11月13日), ⑧「藤田亮策著『考古学』」(あとがき, 国書刊行会, 1976年5月), 「四方 博著『朝鮮社会経済史研究』(下編)」(あとがき, 国書刊行会, 1976年9月)。

周藤吉之

③「高麗初期の鈴轄・巡検と牽竜—宋の鈴轄・巡検・牽竜官との関連において—」(東洋大学大学院紀要13, 213～240頁, 東洋大学, 1977年3月), 「高麗初期の翰林院—宋の翰林学士・知制誥との関連において—」(東洋学報58—3・4, 1～54頁, 東洋文庫, 1977年3月)。

関野 雄

①『上海博物館——出土文物・青銅器・陶磁器——』(林巳奈夫・長谷部楽爾共著, 平凡社, 1976年7月, 328頁, 原色版144点, グラビア14点), ④「中国考古学の現状——元謀人から万暦帝まで——」(東洋学報58—3・4, 97～116頁, 東洋文庫, 1977年3月), ⑥「長沙馬王堆1号漢墓」(日本語版翻訳代表, 平凡社, 1976年4月, 解説篇230頁, 図版篇カラー76点・グラビア216点), ⑦「中国考古学の現状」(東京国立博物館記念講演会, 1976年4月3日), 「新中国考古紀行」(昭和50年度足利学校記念講演筆記, 足利学校遺跡図書館, 1977年3月, 25頁), ⑧「意外な出土品」(国立博物館ニュース347, 4頁, 東京国立博物館, 1976年4月), 「新中国における文化財の保護」(『中国文化史蹟』月報7, 1～2頁, 法蔵館, 1976年10月)。

田川孝三

②『經國三典語彙集覽』(東洋文庫朝鮮研究委員会編, 250頁, 東洋文庫, 1977年3月), ③「郷規について(一), (二)」(朝鮮学報78・81, 45～88, 179～210頁, 朝鮮学会, 1976年1・10月), 「朝鮮の古文書—官文書を主として—」(『書の日本史』9, 138～152頁, 平凡社, 1976年3月)。

田中時彦

④「戦後に於ける日本政治史の研究動向」(東海大学紀要(政治経済学部)8, 15～36頁, 東海大学出版会, 1976年9月), ⑤「フランク・C・ラングドン著, 福田茂夫監訳『戦後の日本外交』」(エコノミスト, 1976年6月22日号, 89～90頁, 毎日新聞社)。

竺沙雅章

①『征服王朝の時代』(「新書東洋史」3, 241頁, 講談社, 1977年3月)。

鶴見尚弘

③「康熙十五年丈量, 蘇州府長洲縣魚鱗図冊の田土統計の考察」(『木村正雄先生退官記念東洋史論集』311~344頁, 木村正雄先生退官記念事業会東洋史論集編集委員会, 1976年12月)。

土肥義和

②「(書評発表)堀 敏一著『均田制の研究』第2篇均田制の展開」(歴史学研究会東洋前近代史部会報告, 1976年4月17日, 要旨: 歴史学研究月報199, 10~12頁, 歴史学研究会, 1976年7月), 「敦煌出土漢文文書の性格—吐蕃占領期を中心に—」(東洋文庫談話会, 1976年10月23日), 「吐蕃占領期の敦煌文献について」(京都大学東洋史研究会大会, 1976年11月3日, 同上大会発表要旨, 7頁, 要旨: 東洋史研究35—3, 190~191頁, 1976年12月), 「敦煌と千仏洞—古文書は語る—」(第54回国学院大学華道學術講座, 1977年3月25日)。

鳥海 靖

②『概説日本史』(篠 弘道らと共編, 307頁, 有斐閣, 1977年2月), 『伊藤博文關係文書』5 (伊藤 隆らと共編, 457頁, 塙書房, 1977年3月), ③「民撰議院設立建白の波紋」(歴史と人物58, 134~140頁, 中央公論社, 1976年6月), ⑦「近代日本における政治指導の特色」(神奈川縣教育センター, 1976年8月3日), 「近代日本の政治指導」(トインビー市民の会, 1976年10月16日, 要旨: 現代とトインビー34, 25~27頁, トインビー市民の会, 1977年3月), ⑧「オーストラリア印象記」(ばれるが290~292, 評論社, 1976年4~6月), 「(対談)新聞は何をしたのか」(諸君8—7, 148~162頁, 文芸春秋社, 1976年7月), 「若がえり論への疑問」(正論34, 30~31頁, サンケイ新聞社, 1976年11月)。

永田雄三

①『Some Documents on the Big Farms of the Notables in Western Anatoria』(Studia Culturae Islamicae, No. 4, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo, 1976), ②『Muhsin-zâde Mehmed Paşa ve Âyânlik Müessesesi』(Study of Languages and Cultures of Asia and Africa Monograph Series, No. 6, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo, 1976.), ③「16世紀トルコの農村社会—1531年付サルハン県「検地帳」分析の試み—」(東洋学報58—3・4, 041~071頁, 東洋文庫, 1977年3月), ⑤「オスマン帝国社会経済史研究における遺産目録の重要性」(東洋学報57—3・4, 265~270頁, 東洋文庫, 1976年3月)。

坂野正高

③「〔飯塚浩二著『満蒙紀行』解説』（『飯塚浩二著作集』10, 564～580頁, 平凡社, 1976年6月), ⑦“Etudes japonaises relatives à l'histoire diplomatique de la Chine modern: une réévaluation” (Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociale の中国革命史セミナー Séminaire de la révolution chinoise [Lucien Bianco 氏指導] における講演, 1976年3月18日), “Ma Chien-chung (1844—1900), un réformateur frustré: ses vues sur le service diplomatique et l'instruction navale” (パリ第三大学の I.N.L.C.O. の Marie-Claire Bergère 教授の中国近代史セミナーにおける講演, 1976年4月6日) (Centre de recherche et de documentation sur la Chine contemporaine の研究会 [同センター所長 Jacques Guillermez 氏主宰] における講演, 1976年4月12日), 「フランス雑感—中国研究の近情—」(東京大学東洋文化研究所の「東アジア政治・法律(中国の法と政治)」班研究会, 1976年7月15日), 「中国を訪ねて」(国際基督教大学アジア文化研究所講演会, 1977年2月15日), 「訪中偶感—歴史研究と現象認識—」(東京大学法学部政治学研究会, 1977年2月19日), 「中国二週間の旅—最近の政情についての見聞を中心として—」(東京大学東洋文化研究所の「東アジア政治・法律(中国の法と政治)」班研究会, 1977年3月8日), ⑧「バケツの中の獲物—飯塚浩二著『満蒙紀行』に寄せて—」(アジア時報 74, 68～69 頁, 1976年6月), 「ドウミエヴォル先生を訪ねる—パリーのシノログ達との一ヶ月—」(UP 49, 7～11頁, 東大出版会, 1977年11月), 「めざす資料にたどりつくまで—パリーで見た馬建忠の成績表—」(学内広報 361, 5～7 頁, 東京大学広報委員会, 1977年3月)。

藤枝 晃

③「離合—西域出土文物のその後—」(図書324, 14～18頁, 岩波書店, 1976年8月), ④「我国出土の木簡—奈良国立文化財研究所第一回木簡研究集会によせて—」(出版ダイジェスト825, 梓会, 1976年4月), ⑦「漢簡研究の現状」(奈良国立文化財研究所第二回木簡研究集会, 1977年1月12日), 「写経」(朝日アートセミナー, 1977年1月29日), ⑧「関雪と湖城」(関田湖城と無款遺印展, 2～3頁, 白沙村荘, 1976年4月), 「金文への開眼」(『貝塚茂樹著作集』付録 1, 1～4頁, 中央公論社, 1976年5月), 「ワールドコーヒーのブレンドコーヒー—日本名コーヒー史料(4)—」(近代食堂別冊10, 喫茶とスナック, 217頁, 旭屋出版, 1976年7月), 「奇妙な体験」(岩波講座日本語第二回月報, 1～3頁, 1976年12月), 「表紙うらばなし」(言語生活303, 52～55頁, 筑摩書房, 1976年12月), 「藤枝 晃教授著作目録」(東方学報(京都) 49, 393～401頁, 京都大学人文科学研究所, 1977年2月)。

古垣光一

⑤「竺沙雅章著『宋の太祖と太宗—変革期の帝王たち—』(平凡社刊・人の歴史シリーズ東洋9)」(白東史学会々報特集号, 4～5頁, 中央大学東洋史研究室, 1977

年1月), ⑦「竺沙雅章著『宋の太祖と太宗』(同上)」(白東史学会月例研究会, 1976年7月7日), 「宋初の遷官について」(東洋文庫談話会, 1976年12月4日)。

本庄比佐子

⑤「ピョートル・ウラジミロフ著, 高橋正訳『延安日記』(近代中国1, 37~40頁, 巖南堂書店, 1977年1月), 「王明著『中国共産党の半世紀と毛沢東の裏切り行為』」(東洋学報58—3・4, 117~122頁, 東洋文庫, 1977年3月), ⑧「フーヴァー研究所における資料調査より」(東洋文庫書報7, 86~93頁, 東洋文庫, 1976年3月)。

松本信広

③「マーセル・モース氏の憶い出」(社会人類学年報2, 1~12頁, 弘文堂, 1976年10月), 「日本神話の比較研究—海幸山幸物語と磐瓠伝説—」(『講座日本の神話』11, 1~28頁, 有精堂出版, 1977年4月), 「柳田国男の『海南小記』と『海上の道』—民族と民俗について—」(どるめん13, 99~116頁, ジック出版局, 1977年4月), ⑤「山本達郎編『ベトナム中国関係史』」(朝日新聞えつらん室, 1976年6月), 「吉田敦彦著『小公子とハイスウェレ』」(朝日ジャーナル, 69~70頁, 1976年11月)。

森 正夫

③「日本の明清時代における郷紳論について(二), (三)」(歴史評論312, 314, 74~84頁, 113~128頁, 歴史科学協議会, 1976年4月, 6月), ⑦「明末の江南における『風俗』の変容と民衆反乱」(東洋文庫談話会, 1977年3月26日)。

山口瑞鳳

③「吐蕃の国号と羊同の位置」(東洋学報58—3・4, 55~95頁, 東洋文庫, 1977年3月)。

山崎元一

③「古代インドの村落と土地所有—『マヌ法典』『アルタシャーストラ』を史料として—」(辛島 昇編『インド史における村落共同体の研究』1~30頁, 東京大学出版会, 1976年9月), ③「アンベードカルのカースト論」(アジア経済17—11, 2~20頁, アジア経済研究所, 1977年11月), ⑤「塚本啓祥著『アショカ王』『アショカ王碑文』」(史学雑誌85—10, 77~86頁, 史学会, 1977年11月)。

山根幸夫

②『中国農民起義文献目録』(東京女子大学東洋史研究室, 114頁, 1976年5月), ⑤「わが著書を語る『論集近代中国と日本』」(出版ニュース5月中旬号, 41頁, 出版ニュース社, 1976年5月), ⑤「狭間直樹著『中国社会主義の黎明』」(週刊読書人1154, 6頁, 週刊読書人社, 1976年11月1日), ⑤「小林文男著『中国現代史の周辺』」(アジア経済18—1, 92~93頁, アジア経済研究所, 1977年1月), ⑥「関斗基著『清代<生監層>の性格—特にその階層的個性性を中心にして—(上)』」(稲田英子

共訳、明代史研究 4, 27～46頁、明代史研究会、1976年11月)、⑦「台湾人民と中国革命—苗栗起義を中心にして—」(辛亥革命研究会、1976年6月26日)。

山本達郎

③“Dragon-Boat Race” (Proceedings, The IVth International Symposium, National Academy of Sciences, Republic of Korea, pp. 13～20, 1976, December), 「敦煌発見の籍帳にみえる「自由」」(東方学53, 1～20頁、東方学会、1976年1月), ④「文化交流研究施設が発足した頃」(東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要 1, 6～7頁、1976年), 「国際学士院連合第四十九回総会報告」「国際哲学人文科学協議会第十三回総会報告」(日本学士院紀要34—1, 40～47頁, 47～50頁, 1976年6月), 「国際学士院連合第五十回総会報告」「ハンガリー学士院訪問報告」(日本学士院紀要34—2, 113～120頁, 120～121頁, 1976年11月), 「第三十回国際アジア・北アフリカ人文研究会議(報告3)“東南アジア関係の研究発表”」(東方学会報31, 5～6頁, 東方学会、1976年12月), 「第30回国際アジア・北アフリカ人文科学会議に出席して」(永積 昭共著)(東南アジア歴史と文化 6, 180～185頁, 東南アジア史学会、1976年11月), ⑤「Ch. Archaimbault, “La course de pirogues au Laos: un complex culturel”」(東南アジア歴史と文化 6, 147～150頁, 東南アジア史学会、1976年11月), ⑦「越南中国関係史—史実と伝承—」(日本学士院例会論文報告, 1976年4月12日), 「大学変革の理念」(国際基督教大学同窓会総会講演, 工業クラブ, 1976年5月15日), 「総括討論」(東南アジア史学会研究大会, 京都楽友会館, 1976年7月7日), 「Boat Race Festivals in East and Southeast Asia (30th International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa, Mexico City, 1976年8月4日), 「漢字文化圏」(朝日カルチャーセンター講演, 1976年9月22日), 「東南アジアを理解するために」(金葉会, 国際文化会館, 1976年9月24日), 「竜舟競渡 Dragon-Boat Races」(韓国学術院国際シンポジウム, 1977年10月26日), 「敦煌発見の籍帳にみえる地段の隣接関係について」(東洋文庫内陸アジア発見古文獻研究会, 1977年11月5日), 「東南アジアの民族と宗教」(アジア宣教研究会講演, 日本基督教団富士見町教会, 1976年12月2日), 「古代における中国と東南アジア」(朝日カルチャーセンター講演, 1977年12月6日), 「歴史と人間—歴史学とライフサイエンス—」(日本医師会特別医学分科会「ライフサイエンスと生存資源」講演, 経団連会館ホール, 1977年12月9日), ⑧「国際理解と協力体制」(『地球の中の日本, 今日課題と未来への展望』2, 国立教育会館編集, 338～369頁, ぎょうせい出版社, 1976年4月10日), 「故原田淑人会員追悼の辞」(日本学士院紀要33—2, 76～78頁, 1975年6月(1976年10月配布), 「世界史像の研究, 序」(『世界史像の研究』1, 1～2頁, 国際基督教大学アジア文化研究所, 1977年3月)。

渡辺紘良

- ③「宣和三年私租私債減免令について」(『木村正雄先生退官記念東洋史論集』105～119頁, 同論集刊行会, 1976年12月), ⑤「昌 彼得他編『宋人伝記資料索引』」(東洋学報58—1・2, 196～198頁, 東洋文庫, 1976年12月)。

IV 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理 事 会

- 第 214 回 開催日 昭和51年 6 月15日 (火)
出席者 辻 直四郎, 有光次郎, 河野六郎, 高垣寅次郎
委任状 榎 一雄, 小笠原光雄, 川北禎一, 酒井杏之助, 徳川宗敬,
松本重治, 山本達郎, 岡東 浩
- 第 215 回 開催日 昭和51年10月18日 (火)
臨時持廻り
- 第 216 回 開催日 昭和51年11月30日 (火)
出席者 榎 一雄, 小笠原光雄, 河野六郎, 高垣寅次郎, 松本重治
委任状 辻 直四郎, 有光次郎, 川北禎一, 酒井杏之助, 徳川宗敬,
山本達郎, 岡東 浩
- 第 217 回 開催日 昭和51年11月30日 (火)
出席者 榎 一雄, 小笠原光雄, 河野六郎, 高垣寅次郎, 松本重治
委任状 辻 直四郎, 有光次郎, 川北禎一, 酒井杏之助, 徳川宗敬,
山本達郎, 岡東 浩

評 議 員 会

- 第 95 回 開催日 昭和51年 6 月15日 (火)
出席者 辻 直四郎, 坂本太郎
委任状 梅原末治, 岡本道雄, 久野 洋, 中山素平, 長谷川周重,
林 健太郎, 俣野健輔, 村井資長
- 第 96 回 開催日 昭和51年11月30日 (火)
出席者 榎 一雄, 坂本太郎
委任状 梅原末治, 岡本道雄, 久野 洋, 中山素平, 長谷川周重,
林 健太郎, 俣野健輔, 村井資長

B. 東洋学連絡委員会

前期 開催日 昭和51年5月25日(火)

- 議 題 1. 昭和50年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 昭和51年度財団法人東洋文庫事業計画案について

後期 開催日 昭和51年10月26日(火)

- 議 題 1. 昭和51年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 昭和52年度財団法人東洋文庫事業計画案について
3. 東洋学連絡委員会委員の改選について

C. 東洋文庫維持会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので、現在の会員は下記の通り47社である。会員には普通会員(個人)、賛助会員(個人又は法人団体)、及び特別会員があり、特別会員を除き年会費(普通会員1口5千円以上、賛助会員1口50千円以上)を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿

(昭和52年3月31日現在 敬称略・順不同)

三 菱 重 工 業 株式会社	三 菱 化 工 機 株式会社
株式会社 三 菱 銀 行	三 菱 瓦 斯 化 学 株式会社
旭 硝 子 株式会社	三菱自動車工業 株式会社
三菱化成工業 株式会社	三菱自動車販売 株式会社
三 菱 金 属 株式会社	三 菱 樹 脂 株式会社
三菱鉱業セメント 株式会社	三 菱 製 鋼 株式会社
三 菱 地 所 株式会社	三 菱 製 紙 株式会社
三 菱 商 事 株式会社	三菱モンサント化成 株式会社
三 菱 石 油 株式会社	三 菱 油 化 株式会社
三 菱 電 機 株式会社	株式会社 伊 勢 丹
三菱レイヨン 株式会社	エ ー ザ イ 株式会社
日 本 郵 船 株式会社	小 田 急 電 鉄 株式会社
三菱信託銀行 株式会社	株式会社 西 武 百 貨 店
三 菱 倉 庫 株式会社	東 亜 建 設 工 業 株式会社
明治生命保険 相互会社	東 亜 燃 料 工 業 株式会社
株式会社 竹 中 工 務 店	戸 田 建 設 株式会社
千代田化工建設 株式会社	日産火災海上保険 株式会社
東京急行電鉄 株式会社	日 本 信 託 銀 行 株式会社
日 興 証 券 株式会社	株式会社 日 立 製 作 所
麒麟麦酒 株式会社	富 士 紡 績 株式会社
東京海上火災保険 株式会社	本 田 技 研 工 業 株式会社
日 本 光 学 工 業 株式会社	精 工 産 業 株式会社
三菱アセテート 株式会社	誠 和 株式会社
三菱アルミニウム 株式会社	計47社

2. 人 事 報 告

委員異動

異動年月日	役 職 名	氏 名	異動区分	備 考
51. 3. 31	東洋学連 絡委員会 委員	板 野 長 八	退 任	広島大学名誉教授

職員異動

異動年月日	役 職 名	氏 名	異動区分	備 考
50. 11. 19	司 書	森 岡 康	表 彰	勤続26年
51. 4. 1	研 究 員(嘱託)	松 本 明	就 職	
51. 10. 1	研 究 員(兼任)	池 田 温	〃	東京大学教授

3. 会 計 報 告

昭和51年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和52年3月31日現在

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金額 (千円)	科 目	金額 (千円)
一 般 会 計		一 般 会 計	
国 庫 補 助 金	33,750	経 常 費	53,956
維持 会 費 収 入	32,500	事 業 費	40,544
及 寄 付 金 収 入			
財 産 収 入	7,318		
事 業 収 入	20,786		
雑 収 入	146		
小 計	94,500	小 計	94,500
特 別 会 計		特 別 会 計	
ユネスコ東アジア文 化研究センター収入	61,512	ユネスコ東アジア文 化研究センター経費	61,512
国 庫 補 助 金	59,845	経 常 費	38,716
ユネスコ補助金	1,059	事 業 費	22,796
財 産 収 入	12	民間研究助成金研究費	1,000
雑 収 入	596		
民間研究助成金	1,000		
小 計	62,512	小 計	62,512
合 計	157,012	合 計	157,012

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計	特別会計			合計
		ユネスコ アジア文化 センター会 計	東アジア 文化研究 会計	科学研究費 補助金会 計	
	千円	千円	千円	千円	千円
22	320	—	—	—	320
23	600	—	—	—	600
24	720	—	—	—	720
25	530	—	—	—	530
26	350	—	1,070	1,070	1,420
27	600	—	150	150	750
28	1,000	—	4,500	4,500	5,500
29	1,000	—	1,300	1,300	2,300
30	3,850	—	4,310	4,310	8,160
31	6,850	—	1,940	1,940	8,790
32	6,850	—	2,650	2,650	9,500
33	6,850	—	500	500	7,350
34	6,765	—	5,640	5,640	12,405
35	6,562	—	6,010	6,010	12,572
36	6,000	10,000	3,600	13,600	19,600
37	6,000	11,000	2,010	13,010	19,010
38	6,000	12,000	2,785	14,785	20,785
39	7,828	12,571	3,350	15,921	23,749
40	8,382	12,550	8,895	21,445	29,827
41	9,500	14,500	9,160	23,417	32,583
	(9,166)	(14,257)			
42	11,500	16,000	7,560	23,182	34,083
	(10,901)	(15,622)			
43	11,500	16,700	9,900	26,600	38,100
44	13,500	21,700			
	(13,236)	(21,466)	7,300	28,766	42,002
45	15,300	24,500			
	(14,827)	(24,061)	6,900	30,961	45,788
46	17,200	27,600			
	(16,659)	(27,177)	13,900	41,077	57,736
47	19,000	31,000			
	(18,377)	(30,430)	11,000	41,430	59,807
48	25,000	39,500			
	(24,173)	(38,636)	3,300	41,936	66,109
49	29,000	50,000			
	(28,383)	(49,277)	9,420	58,697	87,080
50	33,000	58,000			
	(30,849)	(56,079)	14,040	70,119	100,968
51	34,500	60,565			
	(33,750)	(59,845)	0	60,565	95,065
52	36,632	65,572	10,000	75,572	112,204

下段記入の()内は決算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (千円)
26	研究成果刊行費	ブラーフマナとシュラウ ターストラとの関係	辻 直四郎	400
	〃	日清戦役外交史の研究	岩 井 大 慧	200
	〃	支 那 経 済 史 考 証	和 田 清	390
	各 個 研 究	古代中国の民族構成の研究	〃	80
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園 田 一 亀	150
28	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩 井 大 慧	4,500
29	〃	〃	〃	1,300
30	〃	〃	〃	4,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 I	神田信夫	310
31	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩 井 大 慧	1,700
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 II	神田信夫	240
32	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩 井 大 慧	1,700
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴 木 俊	580
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 III	神田信夫	370
33	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴 木 俊	500
34	機 関 研 究	中世以降における東アジ ア諸地域の貴重文献の整 理研究	岩 井 大 慧	4,000
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴 木 俊	800
	〃	日唐法制経済文書の比較 研究—正倉院文書と敦煌 文書—	仁井田 隆	500
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 IV	神田信夫	340

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (千円)	
35	機 関 研 究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,800	6,010
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木 俊	900	
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 V	神田信夫	310	
36	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎 一 雄	1,500	3,600
	〃 C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	600	
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木 俊	1,200	
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 VI	神田信夫	300	
37	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎 一 雄	1,700	2,010
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 VII	神田信夫	310	
38	特 定 研 究	イスラーム諸国の社会構造	榎 一 雄	1,700	2,785
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井大慧	1,045	
	各 個 研 究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森 岡 康	40	
39	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一 雄	1,700	3,350
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	750	
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井大慧	850	
	各 個 研 究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺兼庸	50	
40	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	5,400	8,895
	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一 雄	1,440	
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	675	
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録 (朝鮮之部)	榎 一 雄	550	
	〃	漢籍叢書所在目録	森 鹿 三	830	

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (千円)
41	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会的の研究	田 川 孝 三	4,140
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,700
	総 合 研 究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末 松 保 和	1,200
	〃	ペーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻 直四郎	300
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部(東洋文庫の部)	〃	820
42	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会的の研究	田 川 孝 三	3,360
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,700
	総 合 研 究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末 松 保 和	1,200
	〃	ペーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻 直四郎	300
43	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的的研究	青 山 定 雄	7,080
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,820
44	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的的研究	青 山 定 雄	2,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,820
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻 直四郎	2,000
	研究成果刊行費	唐 代 の 服 飾	原 田 淑 人	480
45	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主性の体系的的研究	青 山 定 雄	800
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎 一 雄	4,500

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (千円)
46	一 般 研 究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的 研究	市 古 宙 三	11,500
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関する 中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,400
	〃	李朝後半期の農村社会文化	田 川 孝 三	1,000
47	一 般 研 究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係	市 古 宙 三	5,000
	総 合 研 究 A	李朝後半期の農村社会文化	田 川 孝 三	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎 一 雄	4,400
48	特 定 研 究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市 古 宙 三	2,500
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキム・ネパール調査隊収集チベット文献の整理と目録作成	北 村 甫	800
49	一 般 研 究 A	南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集	榎 一 雄	6,690
	〃 D	明代の地方行政区劃, 府・州・県の地理的沿革に関する研究	鶴 見 尚 弘	230
	特 定 研 究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市 古 宙 三	2,500
50	一 般 研 究 A	イスラム社会の構造に関する歴史学的研究	辻 直四郎	11,500
	〃 D	敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究	土 肥 義 和	290
	特 定 研 究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	榎 一 雄	2,250
52	一 般 研 究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一 雄	10,000

V 役 職 員 名 簿

昭和52年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	辻 直四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
専 務 理 事	榎 一 雄	国立国会図書館支部東洋文庫長 財団法人東洋文庫研究部長 財団法人東洋文庫図書部長 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長 東京大学名誉教授
理 事	有 光 次 郎	東京家政大学学長
〃	小笠原 光 雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川 北 禎 一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河 野 六 郎	大東文化大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター副所長代行
〃	酒 井 杏之助	株式会社第一勧業銀行相談役
〃	高 垣 寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授
〃	徳 川 宗 敬	神社本庁統理 社団法人日本博物館協会会長
〃	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山 本 達 郎	国際基督教大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	岡 東 浩	東山農事株式会社相談役
評 議 員	梅 原 末 治	京都大学名誉教授
〃	岡 本 道 雄	京都大学学長
〃	久 野 洋	慶応義塾大学塾長
〃	坂 本 太 郎	国学院大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	中 山 素 平	株式会社日本興業銀行会長
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社社長
〃	林 健太郎	東京大学学長
〃	前 田 敏 男	京都大学学長
〃	俣 野 健 輔	飯野海運株式会社会長
〃	村 井 資 長	早稲田大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	辻 直四郎	(前 出)
委 員	岩 生 成 一	日本学士院会員
〃	江 上 波 夫	上智大学教授 東京大学名誉教授
常 任 委 員	榎 一 雄	(前 出)
委 員	貝 塚 茂 樹	京都大学名誉教授
〃	塚 本 善 隆	華頂学園長 元京都国立博物館館長
〃	長 尾 雅 人	鉄鋼短期大学教授 京都大学名誉教授
〃	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授 前大正大学学長
〃	松 本 信 広	慶応義塾大学講師 慶応義塾大学名誉教授
〃	宮 崎 市 定	京都大学名誉教授
〃	森 鹿 三	仏教大学教授 京都大学名誉教授
常 任 委 員	山 本 達 郎	(前 出)
委 員	吉 川 幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ・バ リ イ	コロンビア大学教授
P. ドゥミエ ヴ ィ ャ	フランス学士院会員, 元コレージュ・ド・フランス教授
W. フ ッ ク ス	元ケルン大学教授
B. カ ル ル グ レ ン	元スウェーデン王立極東古代博物館館長
E. O. ラ イ シ ャ ワ ー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
W. サ イ モ ン	イギリス学士院会員, 元ロンドン大学教授
G. ト ウ ッ チ	ローマ大学教授, イタリア中東亞研究所所長
A. フォン・ガペイン	元ハンブルグ大学教授
A. R. デ ィ ヴ ィ ス	シドニー大学教授
J. ザ エ ル ネ	第7パリ大学教授, フランス国立高等研究院研究指導員
H. フ ラ ン ケ	ミュンヘン大学教授
L. ペ テ ッ ク	ローマ大学教授

4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	榎 一 雄	(前 出)
	部 長 代 理	護 雅 夫	東京大学教授
	部 長 補 佐	田 中 正 俊	東京大学教授
	研 究 顧 問	岩 村 忍	京都大学名誉教授
	〃	村 田 治 郎	京都大学名誉教授
	研究員(兼任)	青 山 定 雄	聖心女子大学講師
	〃	荒 松 雄	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	岩 生 成 一	(前 出)
	〃	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	梅 原 末 治	(前 出)
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	越 智 重 明	九州大学教授
	〃	亀 井 孝 孝	成城大学教授
	〃	川 崎 信 定	筑波大学助教授
	〃	神 田 信 夫	明治大学教授
	〃	菊 池 英 夫	北海道大学教授
	〃	北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草 野 靖	熊本大学助教授
	〃	河 野 六 郎	(前 出)
	〃	後 藤 均 平	立教大学教授
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	酒 井 憲 二	山梨県立女子短期大学助教授
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学教授
	〃	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	〃	周 藤 吉 之	東洋大学教授
	〃	関 野 雄	お茶の水女子大学教授
	〃	田 川 孝 三	日本大学講師
	〃	田 中 時 彦	東海大学教授
	〃	田 中 正 俊	(前 出)
	〃	竺 沙 雅 章	京都大学助教授
	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学助教授
	〃	土 肥 義 和	国学院大学講師
	〃	鳥 海 靖	東京大学助教授
	〃	中 嶋 敏	大東文化大学教授
	〃	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授

部 名	職 名	氏 名	規 模
研究部	研究員(兼任)	坂 野 正 高	東京大学教授
	〃	藤 枝 晃	京大学名誉教授
	〃	松 濤 誠 達	大正大学講師
	〃	松 村 潤	日本大学教授
	〃	松 本 信 広	慶応義塾大学名誉教授
	〃	三根谷 徹	東京大学教授
	〃	護 雅 夫	(前 出)
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学助教授
	〃	山 崎 元 一	国学院大学助教授
	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学教授
	〃	山 本 達 郎	(前 出)
	〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学講師
	研究員(専任)	金子良太, 本庄比佐子, 松本 明	
図書部	部 長	榎 一雄	
	主 査	中島正之, 森岡 康, 渡辺兼庸	
	副 主 査	大塚祐子, 竹之内信子, 児野寿満子, 秩父良子, 広瀬洋子	
総務部	係 員	池田直人, 小林輝男, 小山 勲, 西園一男, 西園利子	
	部 長	早船艶雄	
	課 長	平野 豊	
	係 員	稲村 優, 宇田川善吉, 染谷コウ, 高木美智子, 光田憲雄, 谷治嘉紀	

5. 臨時職員

昭和51年4月1日より昭和52年3月31日に至る期間に臨時職員として在籍した者は以下の通りである。

新井明子, 飯田隆子, 石井智恵, 磯崎和子, 大島立子, 小沢 彰, 片桐扶佐子, 川越泰博, 小松久男, 小見山春生, 小山典勇, 佐々木淑子, 清水宏祐, 北原 勲, 花田宇秋, 古沢宣子, 武藤 淳, 山名弘史, 渡辺 修。

VI 東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1. 調査研究事業

A. 「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】 10ヶ年計画第2年度

【概要】 本計画は、センターがユネスコ本部に提案し、1974年のユネスコ総会で採択された研究計画で、昭和51年3月にこの計画のための「アジア地域文化研究機関代表者会議」が東京で、センターが受入機関となって、開催された。この会議の決議に基づいて各国で調査研究がおこなわれているが、センターでは、51年度は、次の二つの研究テーマによる調査研究を実施した。

A—1. 「アジア諸国の教育の目標」

【概要】 48年～49年度に実施した「アジア諸国の初等教育に於ける自国文化の位置づけ」に継続して50年度より実施されている調査研究事業で、アジア諸国の伝統と近代教育との関係を総合的にとらえる問題意識と、それを研究するための方法論の開発を目的としている。

【専門委員】 榎 一雄（委員長）、阿部 洋、馬越 徹、津田元一郎、豊田俊雄、弘中和彦。

【事業内容】 本年度は以下の研究会をおこなった。

5月15日 弘中和彦：「インドにおけるペイシック・エデュケーション」

6月19日 佐藤秀夫：「明治時代の教育」

7月24日 渡辺 学：「韓国における書堂」

9月4日 朴 来鳳：「韓国の書堂」

10月22日 光島 督：「ネパールの教育」

11月27日 大野 徹：「ビルマの教育」

12月18日 友杉 孝：「タイの教育」

1月29日 ビビン・ハナビア：「インドネシアの教育」

3月5日 後藤 明：「西アジアの教育」

A-2. 「アジアの伝統文化における理想像——年中行事と生涯行事の分析——」

【概要】 アジアの諸民族のもつユートピア思想を行事の分析をとうして探ることを目的とする調査研究である。

【専門委員】 中根千枝（委員長）、伊藤亜人、関本照夫、田村克己、柳川啓一。

【事業内容】

研究会：

- 11月6日 伊藤亜人：「韓国農村における契」
関本照夫：「中部ジャワの儀礼的食物交換」
2月24日 石井 溥：「ネパールの儀礼」
梶原景昭：「タイの儀礼」

海外実地調査

調査地 ビルマ

調査者 田村克己

調査期間 昭和52年2月1日より3月31日まで

B. 「世界における東洋学の現状調査」

【年度】 7ヶ年計画第5年度

【概要】 「日本における日本研究ならびにアジア研究の現状調査」は、50年度で終了し、本年度から「東アジア諸国における自国研究ならびにアジア研究の現状調査」を実施した。

【専門委員】 護 雅夫（委員長）、石井米雄、池端雪浦、鳥海 靖、長井信一、松村潤。

【事業内容】

海外専門家の招聘

レスリー・バウソン、フィリピン大学文理学部歴史学科主任教授 Leslie E. Bauzon, Associate Professor and Chairman, Department of History, College of Arts and Sciences, University of the Philippines 研究会 10月12日

スリサクラ・ヴァリボッタマ、シルパコン大学人類学講師 Srisakra Vallibhotama, Acting Head, Department of Anthropology, Faculty of Archaeology, Silpakorn University 研究会 3月12日・22日

C. 「東アジア文化研究」

【概要】 東アジア文化を「青銅器文化」、「稲作文化」の二つの側面から探ることを目的とし、本年度は本格的調査研究のための準備をおこなった。

D. 「アジアの口碑伝承に関する研究」

【概要】 本調査研究は、放送文化基金の援助金によって実施したもので、昭和49年9月より51年8月までの2ヶ年にわたって実施した。ここでは51年4月より8月までの事業について報告する。

④「口碑伝承研究の現状調査」

【専門委員】 大林太良（委員長）、荒木博之、大島建彦、坪井洋文、直江広治。

【事業内容】

第10回研究会 大島建彦：「古屋の漏り」（51年8月30日）

⑤「アジアの影絵劇の研究」

【事業内容】

海外実地調査

調査地 トルコ共和国

調査者 設楽國廣

調査期間 51年6月24日より7月18日まで

資料の収集

トルコ政府観光・広報省撮影 カラギョズ映画フィルム 2本

トルコ放送協会撮影 カラギョズ映画フィルム 1本

2. 連絡および情報交換事業

A. 文献目録の作成

『日本における東洋学の回顧と展望—1963-1972』

Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972

本シリーズは、上記調査研究「世界における東洋学の現状調査」の成果を英文で出版するもので、各専門領域毎に分冊で出版した。本年度は以下のものを出版した。

イ. 日本編

石井 進『中世史A』*History of Mediaeval Japan (A)*

浅井 清『文学——近代』*Literature of Modern Japan*

梅谷俊一郎『経済——戦後』*Economy of Post-War Japan*

ロ. アジア編

石井米雄『現代東南アジアA』 *Contemporary Southeast Asia* (A)

『ユネスコ東アジア文化研究センター所蔵マイクロフィルム目録・ビルマ編』の刊行

List of Microfilms Deposited in the Centre for East Asian Cultural Studies, Part 8, Burma.

昭和48年から49年にかけて鹿児島大学ビルマ歴史文献調査隊が撮影したビルマ語の文献のマイクロフィルムのコピーをセンターが購入したが、本書はその目録である。(B 5版 xiii+35p.)

『大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国定期学術刊行物所在目録』の刊行

本書は国内の主要学術機関が所蔵する表記の文献の所在目録である。(B 5版 vii+60p.)

B. 図書の寄贈及び交換

本年度も例年どおり、国内の大学、研究所、各国大使館など約200ヶ所、国外の大学、研究所、国際機関など約200ヶ所に、定期的にセンターの出版物を寄贈した。また国内の研究機関約50ヶ所、国外の研究機関約100ヶ所より定期的に出版物の寄贈を受けた。

C. 「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】 安藤彦太郎、市古宙三、今堀誠二、衛藤藩吉、川勝 守、河地重造、鈴木中正、田中正俊、藤本 昭、堀川哲男、山田辰雄。

昨年度にひきつづいて、日本の近代中国研究者の姓名、住所、現職、専門領域、業績の調査をおこない、名簿と業績をカード化した。本カードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者への便に供されている。

D. 機関誌 *East Asian Cultural Studies* の刊行

本年度は、Vol. XVI, Nos. 1-4 合併号を刊行した。内容は51年3月に開催したアジア地域文化研究機関代表者会議の議事録である。目次は以下のとおりである。

Meeting of Representatives of Cultural Research Institutions in Asia, Tokyo, Japan, 10-16 March 1976

Foreword

Final Report

List of Participants

Agenda

Rules of Procedure

Working Documents

Background Papers

The Challenge of Today and Cultural Identity, by Daryush Shayegan

A Comparative Analysis on Sociological Contexts in Asia, by Chie Nakane

Intercultural Relations in Asia, by Koentjaraningrat

Oral Traditions and Cultural Development, by S. C. Dube

Country Reports

Country Paper: Bangladesh, by Anisuzzaman

Report on Aims and Objectives of the Asian Cultural Documentation

Centre for Unesco, Teheran, by Nasser Mazaheri

Trends of Cultural Studies in Japan, by Yoichi Maeda and Shigeru Ikuta

Certain Points on the Cultural Development in the Mongolian People's
Republic, by Shagdarjav Natsagdorj

A Brief Review of the Nepalese Cultural Situation and Centres of Cultural
Studies in Nepal, by P. R. Sharma

Country Paper: Pakistan, by Karrar Husain

Some Notes on the Cultural Studies in the Philippines, by S. D. Quiason

Main Trends in Cultural Studies in Sri Lanka, by W. B. Wewegama

Geographical Index to the *East Asian Cultural Studies*, Vols. I-XVI, March
1962-March 1977

3. 資料の調査・収集事業

A. 資料調査

本事業は、アジア諸国で出版されているアジア諸言語で書かれたアジア文化に関する学術書・学術雑誌の出版状況を調査することを目的としている。

本年度は、イランに滞在中の清水宏祐に委嘱してイラン国のイラン学・イスラム学関係の研究機関・研究者およびその出版物の調査をおこなった。調査した機関は以下である。

テヘラン大学文・人文科学部, 同・中央図書館, 同・出版部
アーザラーバーデガン大学 (タブリーズ) 文・人文科学部, 同・出版部
フルドゥスィー大学文・人文科学部, 同・出版部
イスファハーン大学文・人文科学部, 同・中央図書館, 同・出版部
パフラヴィー大学 (シーラーズ) 文理学部, 同・アジア研究所
ジュンディーシャープール大学 (アフワーズ) 文・人文科学部, 同・出版部
イラン国民大学 (テヘラン) 文・人文科学部, 同・出版部
パフラヴィー図書館 (テヘラン)
アースターネ・ゴドス図書館, 同・出版部 (マシュハド)
科学・教育計画研究所 (テヘラン)
科学高等教育省国家教育局 (〃)
イラン・ドキュメンテーションセンター (〃)
アジア・ドキュメンテーションセンター (〃)

B. 資料の収集・整理

本年度は、上記のイランでの学術機関の調査の際、イラン (ペルシア) 語の学術雑誌のバックナンバーを収集した。その主なものは以下である。

テヘラン大学文学部紀要 (Majalle-ye Dāneshkade-ye Adabiyat o 'Olūm-e Ensānī-ye Dāneshgāh-e Tehrān)

パフラヴィー大学アジア研究所紀要 (Nāme-ye Mo'assese-ye Āsyā Dāneshgāh-e Pahlavi)

歴史学研究 (Barrasihā-ye Ta'rikhi)

言葉 (Sokhan)

4. 学術図書出版事業

A. 東アジア文化研究シリーズ (英文)

方 修著「マラヤにおける中国語文学の歴史—1920—1942」*Notes on the History of Malayan Chinese New Literature, 1920—1942*

その目次は以下のとおりである。

Preface to the English Edition	
Preface to the Original Edition	
Editor's and Translator's Note	
Introduction	
Part One: Sprouting, 1920-1925	
Chapter I. Publications, Writers and Their Works	
Part Two: Leafing, 1925-1931	
Chapter II. Publications	
Chapter III. Writers and Their Works	
Chapter IV. Literary Movements and Controversies	
Part Three: Blight, 1932-1936	
Chapter V. Publications	
Chapter VI. Writers and Their Works	
Chapter VII. Literary Movements and Controversies	
Part Four: Flowering, 1937-1942	
Chapter VIII. Publications	
Chapter IX. Writers and Their Works	
Chapter X. Main Currents and Literary Movements	
Chapter XI. Minor Literary Movements and Controversies	
Chapter XII. Drama Movement	

B. 専門書シリーズ

チャオブラヤ・ティペコラウオン著 (タデウス・フラッド チャディン・フラッド
共訳注「ラーマー世年代記」の編集をおこなった。

5. 語学講習会

ヒンディ語講習会

【日時】 51年7月12日(月)～8月20日(金)。毎週月曜日より金曜日、午前9時より正午まで。

【講師】 土井久弥, 田中敏雄, 橋本 泰, スシマ・シャイン Sushma Jain

6. 国際交流事業

A. 外国人研究者の招聘

アミン・スウィーニー Amin Sweeney (マレーシア国立大学準教授) 51年7月1日より12月31日まで。

A. B. ラピアン A. B. Lapien (インドネシア学術会議歴史部門長) 51年10月25日より11月9日まで。

レスリイ・パウソン 上記調査研究事業の項参照。

スリサクラ・ヴァリボッタマ 上記調査研究事業の項参照。

B. 外国人研究者による研究会の開催

ケマル・チュウ Kemal Çig (トルコ共和国トプカプ・サライ博物館長)「トプカプ・サライ博物館の特質」(51年9月21日)

ハッサン・サヤ Hassan Sayah (モロッコ 政府文部省主席視察官)「モロッコ文化と日本」(51年10月8日)

C. 研究者および職員の海外出張

設楽國廣 上記調査研究事業の項参照。

生田 滋 51年7月2日より27日まで, バンコックで開催されたユネスコ主催の「東アジア諸国における青銅器文化に関するシンポジウム」および「第2回マライ文化研究プロジェクト」出席のためタイ国に出張。8月3日より13日まで, 「第20回国際アジア・北アフリカ人文科学会議」出席のためメキシコに出張。

藤井敏江・森田嗣子 51年10月17日より23日まで, 出版・印刷状況視察のためタイ国・シンガポール・香港に出張。

護 雅夫 51年9月より1年間。トルコ共和国イスタンブール大学文学部客員教授として出張。11月にユネスコ本部との連絡およびユネスコ総会出席のためトルコ共和国より, パリおよびナイロビに出張。

田村克己 上記調査研究事業の項参照。

D. その他

上記事業以外の目的でセンターを訪れ、センターが便宜供与した外国人研究者は以下である。

- Dr. Josefa Sanie! : Director, Asian Center, Philippine Institute of Advanced Studies, University of the Philippines Complex, Quezon City
- Mr. Pedro Madeira de Andrade : Portuguese Embassy, Tokyo
- Dr. Oktay Sinanoglu : Turkish Republic Professor and Professor of Biochemistry, Yale University, New Haven, Conn.
- Mr. Metin Göker : Counsellor, Embassy of the Republic of Turkey, Tokyo
- Ms. Christiane Rageau : Conservateur à la Bibliothèque Nationale, Service de l'Asie du Sud-Est, Paris
- Mr. Musa Mohammed Omer : Treasurer, Islamic Center, Japan, and Secretary-General, Muslim Students Association, Tokyo
- Prof. 'Abd al-Rahîm 'Abd al-Rahmân : Professor of History, Women's College, Azhar University, Cairo
- Mr. Jonas Engberg : Assistant, Institute of Oriental Languages, University of Stockholm
- Prof. J. Siemes, S.J. : Professor, Sophia University, Tokyo
- Dr. K. V. Malakhovski : Professor of History and Deputy Director, Institute of Oriental Studies, USSR Academy of Sciences, Moscow
- Dr. W. R. van Gulik : Curator, Japanese Department, National Museum of Ethnology, Leiden
- Dr. Dilip Kumar Chakrabarti : Lecturer, Department of Archaeology, Calcutta University
- Mr. K. B. Gardner : Deputy Keeper, Department of Oriental Manuscripts and Printed Books, The British Library, London
- Mr. Terrence O'byrne : Ph.D. Candidate, History Department, University of Illinois, Champaign
- Dr. Madhav Raj Pande : Professor and Chairman, Department of History, Tribhuvan University, Kathmandu
- Dr. L. Petech : Professor, University of Rome
- Mrs. Grace Tai Wah Woo Wong : Curator of Anthropology, National Museum, Singapore
- Dr. Hilda Chen-Apuy E. : Professor, Universidad de Costa Rica
- Prof. Leslie R. Marchant : Director, East Asian Studies Centre, University of

Western Australia, Nedlands

Mr. Robert P. Roebuck: Free Journalist, Tokyo

Dr. Lie Tek-tjeng: Director, National Research Institute of Cultures, LIPI,
Jakarta

Dr. L. P. Delisin: Institute of Oriental Studies, USSR Academy of Sciences,
Moscow

Prof. Charnwit Kasetsiri: Visiting Research Fellow, The Center for Southeast
Asian Studies, Kyoto University

7. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前期 開催日 昭和51年5月25日（火）

報告 1. 人事について

2. 昭和50年度事業報告及び決算報告について

議題 1. 昭和51年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

3. マレーシア国立大学助教授 Amin Sweeney 氏の招聘について

後期 開催日 昭和51年10月26日（火）

報告 1. 昭和51年度事業及び会計中間報告について

議題 1. 昭和52年度概算要求について

2. 「アジアの口碑伝承に関する研究」について

顧問会議

開催日 昭和51年5月25日（火）

報告 1. 人事について

2. 昭和50年度事業報告及び決算報告について

3. 運営委員の改選について

議題 1. 昭和51年度事業計画案及び予算案について

2. マレーシア国立大学助教授 Amin Sweeney 氏の招聘について

B. 役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
51. 4. 1	副所長	護 雅夫	就 任	東京大学教授 財団法人東洋文庫研究部長代理
"	運営委員	渡辺 洋三	退 任	前東京大学社会科学研究所所長
"	"	佐伯 有一	"	前東京大学東洋文化研究所所長
51. 5. 7	"	岡田 与好	就 任	東京大学社会科学研究所所長
"	"	大野 盛雄	"	東京大学東洋文化研究所所長
51. 6. 1	顧問	木田 宏	退 任	前文部省日本ユネスコ国内委員会事務総長
"	運営委員	犬丸 直	"	前文部省学術国際局審議官
51. 6. 16	顧問	今村 武俊	就 任	文部省日本ユネスコ国内委員会事務総長
"	運営委員	沢田 徹	"	文部省学術国際局審議官
51. 9. 1	副所長代行	河野 六郎	"	財団法人東洋文庫理事
51. 9. 4	顧問	宮沢 俊義	逝 去	日本学士院会員 東京大学名誉教授
52. 3. 31	運営委員	土田 直鎮	退 任	東京大学史料編纂所所長

C. 職員異動

異動月日	職名	氏名	就退区分	備考
51. 4. 1	研究員	本庄比佐子	就 職	
51. 7. 31	専門員	Louisa Read	退 職	
52. 2. 12	"	Beverly Nelson	就 職	

D. 会計報告

昭和51年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

昭和52年3月31日現在

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
国 庫 補 助 金	59,845	職 員 俸 給	35,094
ユ ネ ス コ 援 助 金	1,059	職 員 俸 給	31,734
財 産 収 入	12	社 会 保 険 料	1,856
雑 収 入	596	退 職 手 当 積 立 金	1,504
		一 般 管 理 運 営 費	3,622
		事 業 費	22,796
		運営委員会及顧問会議費	150
		長 期 調 査 研 究 費	4,252
		一 般 調 査 研 究 費	3,420
		連 絡 及 情 報 交 換 費	5,316
		ドキュメンテーション活動費	4,405
		出 版 物 の 作 成 費	4,188
		研究会講習会開催費	642
		便 宜 供 与 費	423
合 計	61,512	合 計	61,512

8. 役職員名簿

昭和52年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所長 副所長 副所長代行
榎 一雄 護 雅夫 河野六郎

B. 運営委員

氏 名	現 職
市 村 真 一	京都大学東南アジア研究センター所長
伊 藤 良 二	ユネスコアジア文化センター理事長
岩 生 成 一	日本学士院会員
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
岡 田 与 好	東京大学社会科学研究所所長
岡 野 澄	東京工業高等専門学校校長
尾 高 邦 雄	上智大学教授 東京大学名誉教授
大 野 盛 雄	東京大学東洋文化研究所所長
鹿子木 昇	アジア経済研究所所長
北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
今 日出海	国際交流基金理事長
沢 田 徹	文部省学術国際局審議官
高 田 修	成城大学教授
土 田 直 鎮	東京大学史料編纂所所長
中 村 元	東方学院長 東京大学名誉教授
中 山 昭	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
服 部 四 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
林 屋 辰三郎	京都大学人文科学研究所所長
福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
前 田 陽 一	国際文化会館専務理事 東京大学名誉教授
松 本 信 広	慶応義塾大学名誉教授
山 本 達 郎	国際基督教大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
吉 川 幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授

C. 顧問

氏 名	現 職
今 村 武 俊	文部省学術国際局長・日本ユネスコ国内委員会事務総長
東 畑 精 一	日本学士院会員 東京大学名誉教授
平 塚 益 徳	日本ユネスコ国内委員会会長
前 田 充 明	城西大学学長

D. 参 与

氏 名	現 職
青 山 秀 夫	京都大学名誉教授
岩 淵 悦太郎	元国立国語研究所所長
織 田 武 雄	京都大学名誉教授
海 後 宗 臣	東京大学名誉教授
田 村 実 造	京都女子大学教授 京都大学名誉教授
都 留 重 人	一橋大学名誉教授
長 尾 雅 人	京都大学名誉教授
丸 山 真 男	元東京大学教授
三 上 次 男	東京大学名誉教授
宮 崎 市 定	京都大学名誉教授
宮 本 正 尊	東京大学名誉教授

E. 職 員

Beverly Nelson (専門員), 生田 滋, 後藤 明, 外池明江, 直井靖夫, 西山敬子, 広瀬洋子, 藤井敏江, 本庄比佐子, 松前義治, 森田嗣子

F. 臨時職員

昭和51年4月1日から昭和52年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

飯田隆子, 内野佳子, 篠田得恵, 中山餃子, 林 俊雄, 森川孝典

財団 東洋文庫年報 昭和51年度
法人

昭和53年3月25日発行	非売品
発行者	東京都文京区本駒込 2-28-21 財団法人 東洋文庫 榎 一 雄
印刷者	東京都中央区湊 2-2-4 株式会社 第一印刷所
発行所	東京都文京区本駒込 2-28-21 財団法人 東洋文庫

本書は昭和52年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

